



Amir Tsarfati

2021年8月14日「全ての目がイスラエルに」

— 世への神の計画を理解するために注目すべき国 イスラエル —

今夜、お話ししたい話題は、多くのキリスト教徒が本当に理解していないと思われる内容です。私はイスラエル出身、ユダ族のユダヤ人、イスラエル国のエルサレムで生まれ、そして、私はビホールド・イスラエルというミニストリーを率いています。ですから皆さんは、私が何について話すのか、ある程度、推測出来るでしょう。「**すべての目は、イスラエルに**」これを理解する事は重要です。それには理由がありますから。地図の上の、小さな点でありながら、神は、イスラエルに目を向けておられ、敵も、イスラエルに目を向けています。世界は、イスラエルに目を向け、教会、さらにはユダヤ人でさえそうです。信じられないかもしれませんが、すべてのユダヤ人が、イスラエルにいるわけではありません。そこで、今夜は、それを見て行きます。

さて、このメッセージは、すべて聖書からです。正直なところ、私の意見は重要ではありませんし、私達は、その為にここにいるわけではありませんから。これから、すべての目が、イスラエルに向けられる理由を立証し、数千マイル以上離れている国は、皆さんの神が、約束を守る神である保証だという事を、皆さんが理解し、励みをいただければと思います。分かりますか？それでは、お祈りから始めましょう。

お父様、あなたの御言葉に感謝します。あなたの御言葉は真実です。そして、今夜、その真理によって私達を聖め別ってください。あなたに感謝し、あなたを祝福します。イスラエルの聖なる方の御名、イエシュア・ハマシアハの御名によってお祈りします。アーメン。

さて、「すべての目は、イスラエルに」です。では、イスラエルに向けられた神の目を見てみましょう。過去、現在、そしてもちろん未来を見ていきます。まず、過去から始めます。覚えていますか？これは、アブラハムの腰から出てきた国で、世界を祝福する為に定められた国です。私がこれを言うのは、結構な数の教師が、カルバリーチャペルの中でさえ、創世記12章に関して、神がアブラハムに約束された事について話し始めると、トーンが変わるのです。創世記12:1-3

”主はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。」”「ここに、選択の余地はない。わたしが、あなたに土地を見せる。」”**「そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし…」**”さて、覚えていますか？アブラハムという名前は、最終的に、何の父でしたか？多くの国々です。しかし、特定の特別な国があって、そして、主は言われます。”**「わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。」**” 主は言われます。「わたしは、あなたを大いなる国民にする。」ですから今、主は、その国について話しておられます。

”「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」”(創世記12:1-3)

ですから、イスラエル国家は、全世界の祝福となるように、創られました。聖書から理解出来るのは、「主は、特定の国について語っておられ、その国は、他のすべての国にとって祝福になる。」という事です。見てください。「地上のすべての民族は」と、あります。なぜなら、多くの人々が、「アブラハム」と言い、

人は言います。「我々、キリスト教徒、ユダヤ教徒、イスラム教徒は、皆、アブラハムの子孫だ。」それは本当ですが、イサクとヤコブはどうなりますか？彼らは、そこで止めるのです。今、ここで読んだ内容から、世界の他の部分を祝福するように意図された国が登場する事が分かります。そして、もし、神があなたを祝福されているならば、人があなたを呪うことはできません。皆さんは、ご自身の為にそれを覚えておく必要があります。あなたが神に祝福されているなら、人が、あなたを呪うことはできません。ご存知のように、彼らは試しました。バラクの話を見ていますが、覚えていますか？モアブの王です。彼はとてもイライラしていました。彼が見た国民は、戦う方法さえ知らないのに、彼らは、すべての戦いに勝つのです。そして彼は、それが超自然的なものであることを、理解していました。そこで、彼は考えました。「きっと、霊的な方法で彼らを呪ったら、うまくいくだろう。」そして、彼はことわざを唱えて、言いました。そして、バラムは、覚えていますか？彼は、口バと面白い会話をしました。その他にもありますが、今日は、そのことについては話しません。しかし、バラムは、お金を受け取ってイスラエルを呪うために、そこに立っていました。それが、ここでの彼の仕事でした。そして、彼はそこに立って、言いました。

”「バラクは、アラムから、モアブの王は、東の山々から、私を連れて来た。『来て、私のためにヤコブをのろえ。来て、イスラエルに滅びを宣言せよ。』”そして、彼の言葉を見てください。”神がのろわない者を、私がどうしてのろえようか。”(民数記23:7-8)

「いいえ、私には、それはできません。あなたのお金をお返しします。それはうまくいきません。」これがすごい事に、国家は、呪われなかつただけでなく、祝福されたのです。ところで、これは、イスラエルが非常に不信仰だった時代です。イスラエルが完璧だったから、神が、彼らを祝福されたのではありません。皆さん、それを頭から取り除かなければなりません。神は、イスラエルのための計画を持っておられます。イスラエルだけではありません。エルサレム自体を見てください。エルサレムは、神が神の御名と臨在を置かれた場所です。

第二歴代誌6章6節を見てください。主は言われます。

”「ただ、エルサレムを選んでそこにわたしの名を置き、ダビデを選んでわたしの民イスラエルの上に立てた。」”(第二歴代誌6:6)

ところで、これは、偉大なダビデ、イエスの事で、エルサレムから、全世界を統治されます。そして、彼は言われます。

”「ダビデを選んでわたしの民イスラエルの上に立てた。」今 …わたしは、とこしえまでもそこにわたしの名を置くためにこの宮を選んで聖別した。わたしの目とわたしの心は、いつもそこにある。”
(第二歴代誌7:16)

すごいですね。それが神の御心です。それに対して、問題がありますか？私にではなく、主に話してください。イスラエルの国、それは主のもので、エルサレムの都は、主のもので、そして、ダニエルが、将来についての預言をもたらした時、彼は言いました。「私は、あなたの民とあなたの聖なる都に関する預言を伝える為に送られました。」この2つは、切り離す事が出来ません。第45代大統領が、それに気づき、そして、それについて何かをしました。

聖書は、詩篇132章13節で述べています。

”主はシオンを選び、それをご自分の住みかとして望まれた。”(詩篇132:13)

国連が何を言おうと、関係ありません。アメリカが何を言おうと、関係ない！EUが何を言おうと、関係ありません。イーユー、オーユー、ウーユー、イーイー、アーアー、知ったこっちゃない！主が、シオンを選

んだのです。ちなみに、国連は、シオニズムを人種差別と宣言しました。はい、70年代に。後で、彼らはそれを変更しましたが、彼らは、それほどまでに、聖書の真実に執着しているのです。主が、シオンを選ばれ、そして、それを誰の住みかとして望まれましたか？ご自身の住みかです。イエスは、ラシュモア山には戻って来ません。彼は、ソルトレーク・シティに戻って来ません。彼は、ニューヨークに戻って来るのでもありません。主が戻って来るのは、他のどの山でも、他のどの都市でもなく、オリーブ山、エルサレムの都です。慣れてください。

では、現在のイスラエルに対する神の目はどうですか？神が土地を準備されたのを、覚えていますか？彼らの帰還に備えて、土地を整えられました。ユダヤ人の帰還に向けて。100年前、土地は乾き、土地は死んでいて、何もそこで育たない、そこは、ただの不毛な荒地でした。そして、主が、預言者エゼキエルを通して語り、仰ったのです。

“だが、おまえたち、イスラエルの山々よ。おまえたちは枝を出し、わたしの民イスラエルのために実を結ぶ。”—彼らはまだそこにいません。...彼らは、何ですか？”**彼らが帰って来るのが近いからだ。”**
(エゼキエル36:8)

機長が言いますね？「着陸に備えて、シートベルトをお締めください。」イスラエルの帰還に備えて、土地は枝を出し、実を結べ。民には、それらが必要だから。そして今、本当に実り豊かです。イスラエルに行ったことはありますか？そこで朝食を食べた事がありますか？野菜と果物は、信じられないほどです。私は世界中を旅しますが、全く違います。エゼキエル36章で、彼が言うことを見てください。

“わたしは、諸国の民の間で汚され、あなたがたが彼らの間で汚したわたしの偉大な名の聖なることを示す。わたしが彼らの目の前で、あなたがたのうちにわたしの聖なることを示すとき、諸国の民は、わたしが主であることを知ろう。——神である主の御告げ——わたしはあなたがたを諸国の民の間から連れ出し、すべての国々から集め...”

パレスチナ人の土地に連れて行く？ いいえ。わたしは、あなたをアラブの土地に連れて行く？それとも、イギリスの領地に連れて行く？いいえ、ノー、ノー、ノー！ほら、ユダヤ人の土地への帰還を、誰も止めることができなかったのです。私の母が生まれたとき、母は、キプロス島の収容所で生まれました。ホロコーストを生き残った母の両親が、イスラエルへ入国するのを、イギリスが拒否したからです。彼らは船を方向転換しました。でもね、イギリス人が去り、私達は皆来て、今、私達がそこに居ます。ほら、誰も、それを止めることはできない。そして、神は、まず初めに土地を回復されただけでなく、また、その土地に、人々を戻されました。エゼキエル37章で、谷の乾いた骨に向かって、彼は言いました。

“わたしがまた、わたしの霊をあなたがたのうちに入れると、あなたがたは生き返る。わたしは、あなたがたを（何？）あなたがたの地に住みつかせる。”

私は、イスラエルにいることを、謝りません。それは、私達の誰一人として謝る事ではありません。これが、私達の土地なのは、私達が一生懸命働いたからではなく、私達がお金を払ったわけでも、私達がそれを買ったのでもありません。違います。

“わたしは、あなたがたをあなたがたの地に住みつかせる。このとき、あなたがたは、主であるわたしがこれを語り、これを成し遂げたことを知ろう。”

言い換えれば、イスラエルを、彼らの土地に戻す事で、全世界に、神は仰っているのです。「わたしだ。」
「わたしは、何かをしている。備えなさい。」ですから、皆さんが生まれた時、イスラエルはそこにありました。「ああ、イスラエル。ああ、良いね。」いいえ！100年前は、イスラエルはありませんでした。80年前にも、イスラエルはありませんでした。イスラエルは、ヨーロッパにいたほとんどのユダヤ人にとって、

夢でさえなくて、彼らは実際、そこに留まりたかったのです。イスラエルに何がありましたか？砂丘と、蚊と、彼らを殺したいアラブ人？要りません。結構です。「私はウィーンに滞在します。私は、リンゴのシュトルーデルが大好きです。」

そして、神が、来る裁きを警告され、私達は皆、それを知っています。それから、イスラエルは、最終的に..ここから、将来についての話です。彼らは…私は、これを言うことを恥とは思いません。私の国は、彼らの歴史の中で、最も困難な時期に突入します。私達がこれから経験するものと比べると、私達が今まで経験して来たものは、色褪せて見えるでしょう。聖書がそう告げているのです。私の言葉ではありません。未来について、書かれている事を見てください。大患難は、感謝なことに、彼らの救いにつながります。エレミヤ30章7節は言います。

”ああ。その日は大いなる日、比べるものもない日だ。”何一つとして、イスラエルの歴史の中で起こったことは、彼らは、恐ろしい迫害に直面するこの時とは、比べ物になりません。**”それはヤコブにも苦難の時だ。”**イスラエルの苦難の時です。大患難は、イスラエルの救いのためであって、教会とは何の関係もありません。あなたがそれを経験したいなら、留まっていなさい！私達は、あっちで、もっとスペースが出来ますから。しかし、それはヤコブの苦難の時です。間違っはいけません。**”しかし彼はそれから救われる。”**

ダニエル12章、同じです。御使いがダニエルの所に来て、**”その時、あなたの国の人々を守る大いなる君、ミカエルが立ち上がる。”**ガブリエルは、ダニエルに、ミカエルのことを話します。ガブリエルは、国連からです。だから、彼は彼に言っているのです。「ほら、あなたの国の人々を監督しているもう一人の御使いが…」どうなるか、見てください。**”その時、あなたの国の人々を守る大いなる君、ミカエルが立ち上がる。…苦難の時が来る。”**彼の言葉を聞いてください。**”国が始まって以来、その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。”**言い換えれば、それが起こると、彼らが経験する事はそれ以前に起こった事の、どれも比べ物にならない。**”しかし、その時、あなたの民で…”**誰？カギとなる聖句です。すべて何ですか？**”しかし、その時、あなたの民で、あの書にしるされている者はすべて救われる。”**間違いなく、たった一つだけ、あなたの名前がそこにあれば、救われる書があります。あなたは救われ、永遠の命を持っています。それはどの書ですか？子羊のいのちの書。その通り。私達は、それを覚えておかなければなりません。

その時、イスラエルの全家が救われます。

”シオンのために、わたしは黙っていない。エルサレムのために、黙りこまない。その義が朝日のように光を放ち、その救いが、たいまつのように燃えるまでは。”(イザヤ62:1)

ゼカリヤは言います。ほら、私は、皆さんを騙しません。今日のすべてのユダヤ人が、救われるわけではありません。「イスラエルの全家が救われる」というのは、主が来られる時にそこに居る、すべてのイスラエルです。テルアビブは今日、反キリストが現れると、大歓迎で受け入れますよ。信じてください。彼の言葉を見てください。

”全地はこうなる。——主の御告げ——その三分の二は断たれ、死に絶え、三分の一がそこに残る。わたしは、その三分の一を火の中に入れ、銀を練るように彼らを練り、金をためすように彼らをためす。彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼らに答える。わたしは「これはわたしの民」と言い、彼らは「主は私の神」と言う。”(ゼカリヤ13:8-9)

そして、ローマ11章は、最後に残される人について話しています。見てください。

”兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。”

それは奥義です。私がこれを言うのは、私が言わなければ、あなたは、自分の意見が重要だと思うでしょうから。彼は、そうじゃない！と言います。彼の言葉を見てください。”**イスラエル人の一部がかたくなになったのは？ …異邦人の完成のなる時までであり…**” 言い換えれば、異邦人の完成のなる時が来ている。言い換えれば、それは終わった、言い換えれば、これまでだ。大患難を通して、大患難の聖徒たちは受け入れ、もちろん、残りは拒絶します。そして、イエスが戻ってきた時、私達全員が知っている通り、彼らは、自分達が突き刺さした主を見て、嘆き悲しみます。それは、悔い改めのしるしです。そして、彼の言葉を見てください。

”こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりです。「救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」” (ローマ11:25-27)

これで、理解出来ました。神は、イスラエルに全力を尽くしておられます。感動します。さらに主は、大きな約束を持っておられます。彼は言います。わたしのところへ帰れ。そうすれば、わたしはあなたの所に戻る。あなたが動くのだ。わたしは、いつもここにいる。わたしは、あなたの神だ。あなたは悔い改めなさい。わたしは、ここにいる。

イスラエルに対する敵の目。過去は、出エジプト記1章22節で伝えています。

”また、パロは自分のすべての民に命じて言った。「生まれた男の子はみな、ナイルに投げ込まなければならない。女の子はみな、生かしておかななければならない。」” (出エジプト記1:22)

ほら、創世記3章に戻れば、分かります。聖書の中で、最初の預言は何でしたか？ アダムにではなく、エバにでもなく、蛇に告げられたのです。そして、彼は理解していたのです。女の子孫が、かかとで彼の頭を踏み砕く。それを覚えておいてください。言い換えれば、サタンは、どのようにして自分が完全に終わるのかを理解しています。女の子孫によって。今、彼には、手がかりがありません。彼は、全知ではありません。彼は神ではありません。彼は、神になりたがっていますが、ですから、彼は理解しています。まず第一に..

「ふむ…カイン、アベル、正しい方はどっちだ…彼を殺そう。」彼は、セツだとは思っていませんでした。それから、次々に進んで行って、そして、彼は、大いなる国の存在に気付きます。イスラエルと呼ばれる、非常に独特な国がある…「それを取り除こう！」そして、彼の言葉を見てください。ファラオは、すべて生まれた男子を、川に投げ込んで殺すよう、国民に命じました。最初のユダヤ人大量虐殺です。まさに、この箇所。彼らは何もしていません。これらは赤ちゃんです。

エステルを見てください。もう一つの大虐殺の試みです。

”ところが、ハマンはモルデカイひとりに手を下すことだけで満足しなかった。彼らがモルデカイの民族のことを、ハマンに知らせていたからである。それでハマンは、アハシュエロスの王国中のすべてのユダヤ人、すなわちモルデカイの民族を、根絶やしにしようとした。” (エステル3:6)

すべてのユダヤ人を殺すために。ほら、サタンは一時も休みません。第一歴代誌21章 **”ここに、サタンが…”** 彼は、ダビデのような敬虔な人まで攻撃しようとするのです。これを見てください。

”ここに、サタンがイスラエルに逆らって立ち、ダビデを誘い込んで、イスラエルの人口を数えさせた。ダビデはヨアブと民のつかさたちに言った。「さあ、ベエル・シェバからダンに至るまでのイスラエルを数えなさい。そして、その人数を私に報告して、知らせてほしい。」” (第一歴代誌21:1-2)

神が「ダメだ」と言うとき、サタンだけは言うのです。「あなたはそれをやっても良い。その事について、神は、そんなに真剣ではないから。」彼は、エバとアダムに、そう言いました。覚えていますか？

イスラエルに対する敵の目は、過去だけでなく、現在も向いています。今日でも、私達には新しい政府があります。「変化の政府」今の私達の政府です。文字通り、右派から左派に翻った人物がいるのです。そして、議会の120議席の内、6議席しか持っていないのに、彼は今、イスラエルの首相で、“変化”です。ふむ…箴言24章は言います。

”わが子よ、主を、そして王を、恐れよ。’変化’を求める者らと関係を持つな。突然、彼らの不幸は始まる。この両者が下す災難を誰が知りえよう。” (箴言24:21-22 新共同訳)

もしもし？イスラエルに対する敵の目は、また、将来にもあります。さて、今、私達は皆さんと同じくらい酷いです。素晴らしい励ましの言葉ですね。いいえ、しかし、本当です。私達も、同じくらい酷いです。私達は、どんどん悪いことを合法化していて、私達は、ますます悪いことを正常化しています。今、目の前で私達の社会の基本が変わっています。今、イスラエルで起こっている事を見るのはとても悲しいことです。私は、現状を見て、悲嘆に暮れています。

将来的に、イスラエルに向けられた敵の目。サタンは大患難の間に、彼らを絶滅させようと動きます。私達は皆それを知っています。黙示録12章を覚えていますか？

”また、別のしるしが天に現れた。見よ。大きな赤い竜である。七つの頭と十本の角を持ち、その頭には七つの冠をかぶっていた。その尾は、天の星の三分の一を引き寄せると、それらを地上に投げた。また、竜は子を産もうとしている女の前に立っていた。”

これは、メシヤを生もうとしている、イスラエルの国です。何が起こったかを見てください。

”女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである。”誰について話しているのかは、明らかです。どの国から男の子が生まれるのかは、明らかです。そして見てください。”その子は神のみもと、その御座に引き上げられた。” (黙示録12:4-5)

イエスは、主のミニストリーが終わったとき、どこに戻られましたか？彼は御父の右に立っておられる、と聖書は言います。ステパノが、それを見ました。それから、聖書は伝えています。**”女は荒野に逃げた。そこには、千二百六十日の間彼女を養うために、神によって備えられた場所があった。さて、天に戦いが起こって…”** ここから、未来にまっすぐに進んでいます。イスラエルが、反キリストの脅威から逃れる未来へ。そして、彼女の為に、荒野に場所が備えられています。1,260日間。これは7年間の大患難の後半、1,260日は、聖書の年のぴったり3年半です。そして…”**ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。それで、竜と…”** 見てください、これは黙示録です。黙示録は驚くべき書です。なぜなら、これらの出来事はすべて、将来的に「起こった」のです。神は、すでにそれをご覧になりました。すべて起こったのです。神は時間を超えた存在ですから、神は、私達がまだ到達していないものをご覧になり、そして主は、添付ファイル付きで、私達に電子メールを送って、仰いました。「この先、どんな年になるか、知りたいか？これを見なさい。」それはすべて起こった事で、主はご存知なのです。驚きです。「多分」とか、「かも知れない」ではありません。それはすでに起こり、主はご覧になったのです。「何言ってるんだ？」私はあなたに言ってるんです！これは、もう起こったのです。見てください。彼は告げています。

”ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。” 彼が使っている言葉を見てください。「彼は竜と”戦った”。」**”それで、竜とその使いたちは応戦したが、勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。” (黙示録12:3-9)**

さて、これは現在ではありません。現在、私たちの格闘は何に対するものではなく？ **【血肉】** しかし、何に対して？ **【主権、力】** どこで？…天で。彼はまだそこにいます。それほど高くはありませんが、彼はまだそこにいます。彼はまだ彼の使いと共に投げ落とされていません。私の言おうとしていることがわかりますか？

さて、これを見てください。サタンは、千年王国の後でさえ、イスラエルを標的にします。彼は、本当にしつこいですよ。彼は、確実に”ターゲット指向”です。これを見てください。”**しかし千年の終わりに…**”この千年間、周りにサタンはいません。イエスが、エルサレムから物理的に支配され、悪魔の影響は、どこにもありません。私達は、いつもサタンのせいになりますから。ところがほら、千年の後、サタンは少しの間、そこから解き放たれます。聖書は告げます。”**サタンはその牢から解き放され…**”そして、何ですか？彼は、彼が最も得意とする事をする為に出て行きます。

”地の四方にある諸国の民、すなわち、ゴグとマゴグを惑わすために出て行き、戦いのために彼らを召集する。彼らの数は海への砂のようである。彼らは、地上の広い平地に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都とを取り囲んだ。”

それまでにイスラエルは救われます。覚えていますか？イエスが戻って来られると、イスラエルは主を受け入れます。この時イスラエルは、旧約聖書の聖徒、大患難の聖徒たちと共に教会と一緒にです。この時、私達は、その都の聖徒です。これを見てください。

”…愛された都とを取り囲んだ。すると、天から火が降って来て、彼らを焼き尽くした。”（黙示録20:7-9）

さて、世界はどうですか？イスラエルに向けられる、世界の目。過去を見てみましょう。世界中で、かなりの数の人物を見てきました。例えば、ファラオ。出エジプト記1章を見て、話しましたね。”**さて、ヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに起こった。**”ここで、ファラオに戻ります。なぜなら、国家としてのイスラエルが生まれたのは、出エジプトの時ですから。その前は、国はありませんでした。父祖達はいましたが、彼らは個人であって、国家としては、出エジプト記で生まれました。だから、ファラオに戻って、そこから次に進まなければなりません。

”さて、ヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに起こった。彼は民に言った。「見よ。イスラエルの民は、われわれよりも多く、また強い。さあ、彼らを賢く取り扱おう。彼らが多くなり、いざ戦いというときに、敵側についてわれわれと戦い、この地から出て行くといけないから。」”

ほら、これは陰謀ですよ。陰謀論。そういう事です。見てください。彼が言う事は、すべてはばかっています。でも…「ああ、彼らはコレをするかも知れない、アレをするかも知れない…」「それは嫌だ、アレも困る…」「彼らを殺そう！」簡単な事です。

さて、私達はすでに、バラムについて話しましたが、しかし、別のことを思い出して欲しいのです。バラムが、彼らを呪えなかったのは、神が、許さなかったからです。しかし、バラムは、別の何か面白いものを見たのです。民数記23章9節が告げています。

”岩山の頂から私はこれを見、丘の上から私はこれを見つめる。見よ。この民はひとり離れて住み、おのれを諸国の民の一つと認めない。”（民数記23:9）

彼が、彼らを見た瞬間から…彼らは、ただ荒野に居る変わった人達です。彼らは、神の御業を見る事さえ、全く楽しんでいません。「エジプトに連れて行ってくれ！食べ物、エジプトの方が良かった！こんな所に居たくない！水はどこだ！食べ物はどこだ！」彼らはいつも、不平を言っていました。彼らの心は、そこにありませんでしたが、神はその中に居られました。時に、私達は、家族として喧嘩することもあります。し

かし、誰かが、外側から私達を見て言うのです。「ほら、見てごらんよ。」「ほら…」でもあなたは、本当は素晴らしいのを知っています。でも、外から来た人には、神が示されるものが見えます。私を主に導いてくれた友人の家族は、私は、彼らが天使だと思いました。今は、彼らがそうではないことを知っています。でも、当時は素晴らしかったのです。私は、彼らが私に言った事、すべてにとっても惹かれました。神が私に見せてくれたのです。だから神は、バラムに、イスラエルが特別な国であることを、示されました。彼らは、他より優れているわけではありません。彼らは、何を目的に創られましたか？「ひとり離れて住み、おのれを諸国の民の一つと認めない。」ですからイスラエルは、最初、陰謀論に苦しみ、その後、人々は、彼らが異なっていることに気づきました。彼らは、他の人のように意図されていない。

ラハブを覚えていますか？もしもし？良かった！「私は彼女を知らない」ですか？ 私達は、皆、彼女を知っています。彼女を恥じてはいけません。彼女はカッコいい女性でした。なぜか？ほら！彼女は通りで…彼女は他のことを話さず、賢明な女性だったのです。ともかくヨシュア2章が告げています。見てください。

**”ふたりの人がまだ寝ないうちに、彼女は屋上の彼らのところに上って来て、その人たちに言った。
「主がこの地を…」”**

彼らは屋上にいて、時は夜ですから、誰にも聞かれないように彼女は言います。「主が、この地をあなたがたに与えておられること…」そして、彼女は周りを見回し、それから言いました。

”「…私たちはあなたがたのことで恐怖に襲われており、この地の住民もみな、あなたがたのことで震えおののいていることを、私は知っています。あなたがたがエジプトから出て来られたとき、主があなたがたの前で、葦の海の水をからされたこと、また、あなたがたがヨルダン川の向こう側にいたエモリ人のふたりの王シホンとオグにされたこと、彼らを聖絶したことを、私たちは聞いているからです。私たちは、それを聞いたとき、あなたがたのために、心がしなえて、もうだれにも、勇気がなくなってしまいました。あなたがたの神、主は、上は天、下は地において神であられるからです。」”（ヨシュア2:8-11）

世が見ているのがわかります。「うわ、どうなってるんだ…」ハマスは、数年前、私達の神が彼らのロケットを迂回させていると、文句を言っていました。彼らは文字通り、正式に文句を言ったのです。卑怯だ！彼らの神が、ロケットを迂回させている！ラハブを見てください。ラハブは理解しました。エリコの娼婦は、他の者よりもよく理解しています。「彼らは異なっている。」そして、それは彼らではなく、彼らの神がすごいのだ、と。

ルツとナオミはどうですか？ルツとナオミを覚えていますか？

”ルツは言った。「あなたを捨て、あなたから別れて帰るように、私にしむけないでください。あなたの行かれる所へ私も行き、あなたの住まれる所に私も住みます。あなたの民は私の民、あなたの神は私の神です。あなたの死なれる所で私は死に、そこに葬られたいのです。もし死によっても私があなたから離れるようなことがあったら、主が幾重にも私を罰してくださるように。」！（ルツ1:16-17）

ウォ…なんと美しい教会の図でしょうか。私はいつも言いますが、ルツになるか、オルパになるかは、私達の選択です。イスラエルと共に居て、あなたの神は私の神です、と言うか、または、ただ遠くからキスして去るか。その後は、もう、誰もあなたのことを聞きません。ルツは、イエスの血筋です。どうですか？

エステル。

”アハシュエロス王は、王妃エステルとユダヤ人モルデカイに言った。「ハマンがユダヤ人を殺そうとしたので、今、私はハマンの家をエステルに与え、彼は柱にかけられたではないか。あなたがたはユダヤ人について

てあなたがたのよいと思うように、王の名で書き、王の指輪でそれに印を押しなさい。王の名で書かれ、王の指輪で印が押された文書は、だれも取り消すことができないのだ。」”（エステル8:7-8）

アハシュエロス王は、何かを理解しました。クロスはどうか？

”ペルシヤの王クロスの第一年に、エレミヤにより告げられた、主のことばを実現するために、主はペルシヤの王クロスの霊を奮い立たせたので…”

私は、これが大好きです。神がエズラを通して、私達に仰っています。「エレミヤの言葉は、成就しなければならぬ。」面白くないですか？ そして見てください。

”王は王国中におふれを出し、文書にして言った。「ペルシヤの王クロスは言う。『天の神、主は、地のすべての王国を私に賜った。この方はユダにあるエルサレムに、ご自分のために宮を建てることを私にゆだねられた。あなたがた、すべて主の民に属する者はだれでも、その神がその者とともにおられるように。その者はユダにあるエルサレムに上り、（誰の？）イスラエルの神、主の宮を建てるようにせよ。この方はエルサレムにおられる神である。』”

ネヘミヤも同様です。私達は皆、何が起こったのか知っています。興味深い事に、ネヘミヤは、アラブ人がエルサレムに対して、一切権利を持っていない事の、最大の証拠です。見てください。

”王に答えた。「王さま。もしもよろしくて、このしもべをいれてくださいますなら、私をユダの地、私の先祖の墓のある町へ送って、それを再建させてください。」王は私に言った。——王妃もそばにすわっていた——”これは、知っておかなければなりません。”「旅はどのくらいかかるのか。いつ戻って来るのか。」私が王にその期間を申し出ると、王は快く私を送り出してくれた。それで、私は王に言った。「もしも、王さまがよろしければ、川向こうの総督たちへの手紙を私に賜り、私がユダに着くまで、彼らが私を通らせるようにしてください。また、王に属する御園の番人アサフへの手紙も賜り、宮の城門の梁を置くため、また、あの町の城壁と、私が入る家のために、彼が材木を私に与えるようにしてください。」”

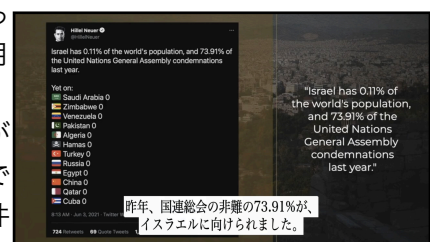
（ネヘミヤ2:5-8）

驚きです。その後、アラブ人のゲシェムやその他3人が笑い、実際に反乱だとして、ネヘミヤを非難し、すると彼は言いました。”「あなたがたにはエルサレムの中に何の分け前も、権利も、記念もないのだ。」”（ネヘミヤ2:20）「だから、あなたには、全く理解出来ないのだ。」



現在でさえ、世の目はイスラエルに向いています。イスラエルの業績に対する、興味深い賞賛があります。信者の話ではありません。世の話です。見てください。”The World of Technology and Innovation”これは記事です。「イスラエルはキングである」「この国は、世界のどこよりも、人口に対する”ITのスタートアップ新興企業”の割合が高く、ベンチャーキャピタルファンドにおいては、米国に次ぐ。これは、どの国にとっても、かなりの偉業であるが、わずか建国70年、人口900万人以下の国であれば、なおさらである。」イスラエルの軍隊は、2021年6月15日現在、この地域でナンバーワンです。ご覧ください。これ以外にも、農業技術、サイバーセキュリティ、いくらでも続けられます。

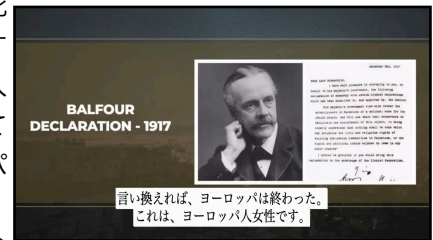
しかし、私達の成功に伴い、反ユダヤ主義が世界中で猛威を振っています。この興味深いものをご覧ください。これは、昨年6月です。イスラエルの人口は、世界人口のわずか0.11%ですが、昨年、国連総会の非難の73.91%が、イスラエルに向けられました。誰かが執着しています。もしもし？彼らには、何らかの薬や医療が必要です。これは深刻な精神病です。米国における、反ユダヤ主義的な事件



は、2020年、歴史的な数でした。イランの指導者は、言いました。「イスラエルは癌性腫瘍であって、破壊すべきだ。」

オランダ人ジャーナリスト、ブリジット・ウィルヘセン。彼女は、オランダで、テロ対策に関して、知識豊富で有名なジャーナリストです。彼女は、今年の5月27日木曜日、ウェブサイトjonet.nlに次のようなコラムを書いています。長年、反ユダヤ主義と闘って来て、彼女は結論に達しました。

「努力の効果がなくなった。終わった。ヨーロッパでは、反ユダヤ主義が勝利した。我々は、それに対抗することはできません。」彼女の言葉を見てください。「この病に対する闘争は、絶望に変わった。」彼女は書きました。これを見てください。「仮に、ユダヤ人が、ヨーロッパの炭鉱内にいるカナリアなら…」カナリアを覚えていますか？炭鉱にカナリアを連れて行って、カナリアが死んだら、そこから逃げなければなりません。あなたも、すぐに死にますから。その鳥が先駆者です。そして彼女は言います。「もし、ユダヤ人が、ヨーロッパの炭鉱に居るカナリアなら、もうこの鳥は、今は生きていない。」言い換えれば、ヨーロッパは終わった。これは、ヨーロッパ人女性です。覚えていますか？バルフォア宣言は、1917年、私達に、ユダヤ人の土地への希望を与えました。それは、1920年のサンレモ会議まで実現しませんでした。バルフォア宣言は、当時の同盟国の良い決断となりました。



将来のイスラエルに対する世界の目。非常に興味深いです。彼らは、私達を殺そうとしますが、しかし、神が、その事で彼らを裁かれます。皆さん、見てください。ヨエル3章。

”見よ。わたしがユダとエルサレムの繁栄を元どおりにする、その日、その時、わたしはすべての国民を集め、彼らをヨシャパテの谷に連れ下り、その所で、彼らがわたしの民、わたしのゆずりの地イスラエルにしたことで彼らをさばく。彼らはわたしの民を諸国の民の間に散らし、わたしの地を自分たちの間で分け取ったからだ。” (ヨエル3:1-2)

これは新約聖書、マタイ25章の羊と山羊の話の旧約聖書バージョンです。

”人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分け、羊を自分の右に、山羊を左に置きます。” (マタイ25:31-33)

その基準は何でしたか？「あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたなら」あなたは羊です。言い換えれば、イエスの兄弟への対応で、これは、国家への裁きです。そして、ゼカリヤは言います。その後、大患難を生き延びた人々は、仮庵の祭りには、毎年、エルサレムへ巡礼する。クリスマスではなく、ラマダンでもなく、仮庵の祭りです。皆さんは、ツリーを全部片付けなくてはなりません。もう、それらは使用しません。それから、卵とか、うさぎや何か、よく分かりませんが。聖書は、ゼカリヤ14章で述べています。

”エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな毎年、万軍の主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。地上の諸氏族のうち、万軍の主である王を礼拝しにエルサレムへ上って来ない氏族の上には、雨が降らない。もし、エジプトの氏族が上って来ないなら、雨は彼らの上に降らず、仮庵の祭りを祝いの上って来ない諸国の民を、主が打つその災害が彼らに下る。これが、エジプトへの刑罰となり、仮庵の祭りを祝いの上って来ないすべての国々への刑罰となる。”

言い換えれば、確実に投資したいなら、エルサレムに投資してください。彼らは、来なければなりません。あそこの空港の飛行機が目に見えます。エア・メシア、メシア航空…彼らは皆、来なければなりません。

彼らが行かなければ、彼らは罰せられます。もしも？ビットコインよりも良いですよ。言っておきます。よく考えてください。

イスラエルに対する、教会の目はどうですか？過去に教会は、置換神学に陥りました。パウロの時代でさえ…置換神学は、過去2~300年のものではありません。パウロはそれを見て、だから彼はローマ11章を書いたのです。これが、すでに彼の時代に起こったことを、私達は知っています。だからこそ彼は言ったのです。

“ところが彼に対して何とお答えになりましたか。「バアルにひざをかかめていない男子七千人が、わたしのために残してある。」それと同じように、今も、恵みの選びによって残された者がいます。”

(ローマ11:4-5)

それから彼は言います。”では、尋ねましょう。彼らがつまずいたのは倒れるためなのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。”皆さん、嬉しくないですか？見てください。あなたは異邦人、あなたは豚を食べる人達です。皆さんは…いや…聞いてください。それが皆さんです。聖書は、エペソ人への手紙の中で告げています。「あなたがどういう人間であったかを、思い出せ。」そして、今、あなたがどういう人間であるか、思い出してください。それから彼の言葉を見てください。彼は言います。「彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。」はい。ところで、どういう訳か、クリスチャンの中に、ユダヤ人になりたがる人がいます。私にはワケがわかりません。理由は何ですか？ほら、イスラエルの90%は一般人で、残り10%が祭司、レビ族の祭司です。いいですか？

皆さんは、祭司に昇進したのです。あなたは、直接祭司に昇進して、あなたは祭司、御国の祭司です。聖なる祭司です。なぜ、あなたは一般人に降格されたいのですか？私はよくわかりません。

”彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。もし彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょう。そこで、異邦人の方々に言いますが…”

皆さんは異邦人ですか？あなたは異邦人ですか？

”そこで、異邦人の方々に言いますが、私は異邦人の使徒ですから、自分の務めを重んじています。そして、それによって何とか私の同国人にねたみを引き起こさせて、その中の幾人でも救おうと願っているのです。もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう。初物が聖ければ、粉の全部が聖いのです。根が聖ければ、枝も聖いのです。もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら、あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。枝が折られたのは、私がつぎ合わされるためだ、とあなたは言うでしょう。そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。高ぶらないで、かえって恐れなさい。もし神が台木の枝を惜しまれなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。見てごらんください。神のいつくしみときびしさを。倒れた者の上にあるのは、きびしさです。あなたの上にあるのは、神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされるのです。彼らであっても、もし不信仰を続けなければ、つぎ合わされるのです。神は、彼らを再びつぎ合わすことができるのです。もしあなたが、野生種であるオリーブの木から切り取られ、もとの性質に反して、栽培されたオリーブの木につがれたのであれば、これらの栽培種の方は、もっとたやすく自分の台木につがれるはずですよ。” (ローマ11:11-24)

イスラエルには、大きな希望があります。そして、教会は理解しなければなりません。教会は、決してイスラエルに置き換わる事はありません。なぜなら、もし、教会がイスラエルに置き換えられるなら、イスラエルに対する神の約束はすべて、何ですか？嘘になります。そして、神はその神学を喜んでおられません。全く喜んでおられません。現在の、イスラエルに対する教会の目は、多くの教会が、イスラエルの役割に対する理解を取り戻しつつあります。多くの教会が、ようやく分かり始めました。イザヤ40章1節は言います。

”「慰めよ。慰めよ。わたしの民を」とあなたがたの神は仰せられる。”

しかし、ヘブライ語を見てください。"na-ḥă-mūna-ḥă-mū'am-mî;"言い換えれば、他の人々が、神の民を慰める事が不可欠です。面白くないですか？イスラエルを慰めることが出来る人々とは、誰でしょう？地球上で、イスラエルを慰めることが出来る人々は、1つだけです。それは信者です。どうして私は知っているのか？第2コリント1章3-4節、

”私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。”

(第2コリント1:3-4)

地球上で唯一、イスラエルを慰めることが出来るの国は、信者の国です。なぜなら、私達は自分自身が神から受ける慰めによって、苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。不信の世界が、何を持ってイスラエルを慰めることが出来ますか？「ふふ。私達は、明日そこへ行きますよ。」何の為に？！

一部の教会は、イスラエルに神がしておられる事に対して盲目です。私達はそれを知っています。**”いちじくの木から、たとえを学びなさい。”**あなたに言います。**”枝が柔らかくなって、葉が出て来ると、夏の近いことがわかります。そのように、これらのことのすべてを見たら、あなたがたは、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。まことに、あなたがたに告げます。…この時代は…”** 皆さんです。「私の時代」と言ってください。そして、微笑んで。これは、皆さんの事ですから。**”この時代は過ぎ去りません。”**なぜ、これはあなたなのか？なぜなら、あなたは、イチジクの木が生き返るのを見ていますから。100年前、80年前はありませんでした。今はあります。そして、皆さんは生きてそれを見ています。皆さんは、イエス・キリストの時代以来、最も恵まれた世代です。分かりますか？「はい…でも、外が暑くて。」どうでも良い！「ええ…でも、今は月曜日にレストランが閉まってて…」もしもし？視点？

将来の、イスラエルに対する教会の目、教会とイスラエルは、イスラエルから一緒に君臨します。面白くないですか？思い出してください。

”この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。”

(黙示録20:6)

ところで、イエスはどこから君臨されますか？もしもし？投資？イスラエルは、標的となります。教会とイスラエル…信者であるイスラエルは、第2のゴグとマゴグで標的にされます。黙示録20章に、それが記されています。**”聖徒たちの陣営”** 私達はイエスと一緒に戻ってくる聖徒で、そして、ユダヤ人は主を受け入れ、私達は一緒に標的にされます。

イスラエルに対する、ユダヤ人の目はどうですか？過去には、不信心なエジプト世代はエジプトを懐かしがりました。もしもし？皆さんは思うでしょう。「ああ、ユダヤ人は彼らの土地に行くんだ。神が備えてくださった場所…」彼らは行きたくなかったのです。非常に明確にしておきましょう。彼らは、エジプトに戻りたかったのです。ええ、はい。

”そのとき、イスラエル人の全会衆は、この荒野でモーセとアロンにつぶやいた。イスラエル人は彼らに言った。「エジプトの地で、肉なべのそばにすわり、パンを満ち足りるまで食べていたときに、私たちは主の手にかかって死んでいたらよかったのに。」 死ぬなら、せめてステーキハウスの隣で死なせてください！ 「事実、あなたがたは、私たちをこの荒野に連れ出して、この全集団を飢え死にさせようとしているのです。」” (出エジプト記16:2-3)

私達は空腹ではなく、満腹で死にたい！見てください。驚きです。不信心なユダの残りの者は、エジプトに戻りました。預言者エレミヤに何が起こったか、覚えていますか。皆さん、エレミヤを覚えていますか？エレミヤは、非常に悲劇的で悲惨な人物です。彼は、ものすごく苦しんだのです。今は、人々が、預言の学校に行きますが、行ってはいけません！預言者は、預言の学校に行く人ではありません。大抵、預言者（プロフェット）の学校に行くのは、利益（プロフィット）があるからです。もしもし？しかし、皆さんに言うておきます。エレミヤは、エジプトに戻るな、と彼らに懇願しました。すると彼らは言いました。「よし、エレミヤ。私達が行くべきかどうか、神に祈って尋ねる。」そして、彼は祈り、10日後、彼は言いました。「行ってはいけない。」そして、彼らは言いました。「私達は、お前を信じない。我々は行く。」そして、彼は、彼らと一緒に行かなければならず、その後、私達は二度と彼について聞くことがありません。彼は、人生のすべてを主に捧げました。私達には、本当に彼に何が起こったのか分かりません。しかし、一つ、私達が知っていることは、イスラエルは、土地にそれほど執着していなかったということです。危険が迫った瞬間、彼らはとても恐れ、エジプトに戻りました。ああ、なんという悲劇でしょうか。エレミヤ44章

”それゆえ、イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。『見よ。わたしは、わたしの顔をあなたがたからそむけて、わざわいを下し、ユダのすべての民を断ち滅ぼそう。わたしは、寄留しにエジプトの国へ行こうと決心したユダの残りの者を取り除く。彼らはみな、エジプトの国で、剣とききんに倒れて滅びる。』”
(エレミヤ44:11-14)

だから、エジプトではなく、ペルシャやバビロンからの帰還だったのです。エジプトに戻ることを決めた人々は、エジプトで死にました。ところで、それは霊的な教訓です。

2人の優秀なスパイはどうですか？覚えておいてください。この全体の混乱の中にも、常に1つの良いことがあります。そして、民数記14章では、ヨシュアが…ところで、彼は”ヌンの子”であって、尼(nun)の子ではありません。彼の母親は尼だったんじゃないかと憶測する人が居るんです。

”すると、その地を探って来た者のうち、ヌンの子ヨシュアとエフネの子カレブとは自分たちの着物を引き裂いて、イスラエル人の全会衆に向かって次のように言った。「私たちが巡り歩いて探った地は、すばらしく良い地だった。もし、私たちが主の御心にかなえば、私たちをあの地に導き入れ、それを私たちに下さるだろう。あの地には、乳と蜜とが流れている。ただ、主にそむいてはならない。その地の人々を恐れてはならない。彼らは私たちのえじきとなるからだ。彼らの守りは、彼らから取り去られている。しかし主が私たちとともにおられるのだ。彼らを恐れてはならない。」” (民数記14:6-9)

12人のうち、2人には、神が素晴らしいことを備えておられることが見えました。だから、希望があります。ダニエル、エズラ、ネヘミヤのような、神の人々の興奮は、驚くべきものです。

ダニエル、私はこの男が大好きです。彼の言葉を見てください。

”メディア族のアハシュエロスの子ダリヨスが、カルデア人の国の王となったその元年、すなわち、その治世の第一年に、私、ダニエルは、（誰？）預言者エレミヤにあった主のことばによって…”

ほら、エレミヤは、彼が死んだ後でさえ、後に生まれた人達に、このような影響を与えたのです。そして、ずっと後に生まれたダニエルが、「私は書を勉強しました。帰還が迫っているのを私は知っている。私達が

土地を追われるのは、70年間だけだとエレミヤが言ったのだ。もうすぐだ。イエーイ！」”…エルサレムの荒廃が終わるまでの年数が七十年である…”

エズラの言葉を見てください。

”私たちの父祖の神、主はほむべきかな。主はエルサレムにある主の宮に栄光を与えるために、このようなことを王の心に起こさせ、王と、その議官と、すべての王の有力な首長の好意を私に得させてくださった。私の神、主の御手が私の上にあったので、私は奮い立って、私といっしょに上るイスラエル人のかしらたちを集めることができた。” (エズラ27-28)

彼は奮い立ちました。彼は他の場所に居て、彼はイスラエルから離れていたのです。しかし、彼は奮い立ちました。彼の心がイスラエルにあったので。彼は知っていました。「これは私達の土地、これは私達の神殿、これは私達の都だ。私はそこに戻らなければならない。そして、私は神の御手が私の上にあるのを見て、奮い立つ。」常に、群衆に耳を傾けるか、神に耳を傾けるかのどちらかです。ところで、群衆は決してあなたを奮い立たせる事はありません。

ネヘミヤ。

”しかしどうか、あなたのしもべモーセにお命じになったことばを、思い起こしてください。『あなたがたが不信の罪を犯すなら、わたしはあなたがたを諸国民の間に散らす。あなたがたがわたしに立ち返り、わたしの命令を守り行うなら、たとい、あなたがたのうちの散らされた者が天の果てにいても、わたしはそこから彼らを集め、わたしの名を住ませるためにわたしが選んだ場所に、彼らを連れて来る』と。これらの者たちは、あなたの偉大な力とその力強い御手をもって、あなたが贖われたあなたのしもべ、あなたの民です。” (ネヘミヤ1:8-11)

素晴らしいことです。



現在のイスラエルに対する、ユダヤ人の目はどうですか？さて、反ユダヤ主義は、シオニズムにつながりました。皆さんが、それをご存知かどうかは分かりませんが、ドレフス事件を知っている人はいますか？アルフレド・ドレフス？彼はフランスの将校だった人物で、敵のスパイとして告発されました。もちろん、彼は何もしていませんが、彼はユダヤ人だったので、彼に濡れ衣を着せるのは簡単でした。その後、彼の階級は剥奪され、彼は亡命に追い込まれました。感謝な事に、彼の無実

は後で証明され、何年もの後、無罪が認められました。さて、このすべてが起こっていた間、この話を取材したジャーナリストがいました。彼の名はビニヤミン・ゼエヴ・ヘルツェル。ヘルツェル、ジャーナリストは理解したのです。「我々は、ユダヤ人だから標的にされている。我々には、自分の国が必要だ。」イスラエルの国を、聖書は何と呼んでいますか？”シオン”です。「シオンに帰ろう。」そうやって、シオニスト運動が始まったのです。シオンに帰る為に。そういう事です。私達が到着した時、詩篇83章のすべての国がやって来ました。私達が国家宣言してから1時間



後、5つのアラブ諸国が私達に攻めて来たのです。ヨルダン、エジプト、レバノン、シリア、イラク。しっかり装備した軍隊です。私達？私達は、飛行機を2機持っていました。片手に操縦桿を持って、別の手で爆弾を投げなければなりません。私達は、5台の装甲車を持っていました。彼らが、私達を破壊したかったのは、1時間前に、私達が土地の名前を変更したからです。パレスチナから、イスラエルへ。だから彼らは、イスラエルの名が、もはや覚えられないようにしたかったのです。それは詩篇83章、1948年の事でした。1967年にもう一つの試み、1973年のもう一つの試み。その後、彼らはあきらめました。エジプトは私達

と平和に署名し、ヨルダンも私達と平和に署名しました。そして、文字通りレバノンとシリアは、もはや存在しません。彼らはただ崩壊しています。そして、アラブ世界の残りの部分は、現在、私達と平和があります。アラブ首長国連邦は、今朝、テルアビブに大使館を開設しました。今朝です。どこに？テルアビブ株式市場の建物内です。なぜか？何十億もの資金が流れますから。投資です。彼らは、このすべての成果を見えています。私達、私達全員、あなた、私達、自分自身、私達は、大きな移行を目の当たりにしています。隣接諸国から絶滅させられそうになった詩篇83章から、エゼキエル38章に。これは何ですか？イスラエルが安全で強く、繁栄していて、敵は、隣接諸国ではなく、第二層です。トルコ、ロシア、ペルシャ（イラン）、スーダンとリビアです。これらは隣接国ではありません。第二層です。聖書は、彼らが何の為に来ると言っていますか？ 彼らは盗むために来る、奪い、略奪する為です。それは他の何でもなく、私達が見つけたものが目的です。詩篇83章の目的が「イスラエルの名がもはや覚えられないようにしましょう。」なら、エゼキエル38章は、全て、

”多くの日が過ぎて、あなたは命令を受け、終わりの年に、一つの国に侵入する。その国は剣の災害から立ち直り、その民は多くの国々の民の中から集められ…” そして、これ見てください。**”あなたは物を分捕り、獲物をかすめ奪い…”** (エゼキエル38:1-9)

そしてもちろん、神が、そのすべてから私達を救われます。では、将来のイスラエルに対する、ユダヤ人の目はどうでしょうか？ユダヤ人の帰還は、完了します。私達はそれを知っています。イザヤ11章

”その日、主は再び御手を伸ばし、ご自分の民の残りを買取られる。残っている者をアッシリヤ、エジプト、パテロス、クシュ、エラム、シヌアル、ハマテ、海の島々から買取られる。” ワオ… **”主は、国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。”** (イザヤ11:11-12)

すべてのイスラエルは、故国に居て、彼らのメシヤの再臨を見ます。そして、聖書は言います。

”わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。” (ゼカリヤ12:10)

そして、彼らが立ち返ると、主が戻って来られます。覚えておいてください。彼がそう言ったのです。

ホセア5章15節

”彼らが自分の罪を認め、わたしの顔を慕い求めるまで、わたしはわたしの所に戻っていよう。彼らは苦しみながら、わたしを捜し求めよう。” (ホセア5:15)


大患難は、イスラエルの救いのためです。それを覚えておいてください。神と御言葉に、近づけば近づくほど、イスラエルの土地とのつながりが理解します。それを理解すればするほど、彼らの土地への帰還が、あなたにとっては、シートベルト着用のしるしである事を理解します。私達は、すぐにここから出て行きますから。本当にまもなく、私達は王にお会いします。

お父様、今日、私達がこれらのものを目にしている事を、感謝してもしきれません。私達の先祖は、夢見ることしか出来なかった事を、私達は見ています。私達は、かの日が近づいているのを見ています。私達に、その特権を与えてくださり、感謝します。とても光栄な事であって、私達は、それを当然のことと考えたくありません。お父様、全て、あなたの御言葉が伝えている事をあなたの民が、真剣に考えますように。無視したり、隠したり、軽くあしらう事なく、比喩や象徴として受け取る事なく、父よ、あなたがイスラエルに対してされた事を人々が理解しますように。あなたは、私達にメッセージを送っておられます。私達の時が

近づいていて、私達はすぐにここから出て行きます。あなたは来て、私達をあなたの元に迎えてくださると
いう大きな約束を感謝します。あなたの居られる所に、私達も居る為です。
主の御名によって祈ります。

すべて、神の民は言います。アーメン。



 スマートフォンなどのカメラで読み込むと、YouTubeのメッセージが見れま



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2021.08.24 (Tue)